

生田緑地の自然帳

～生田緑地の自然情報をお届けします～

生田緑地自然環境保全管理会議事務局 044-933-2063

『在来種』まめ知識

生田緑地では、かつての多摩丘陵の頃から生息している在来種を未来に残したいという思いがあります。今号では、生田緑地の在来種にスポットを当てます。

定義を確認しよう

在来種とは…

新版生態
工学^{*1}

『自然分布域に生息する生きもの』

環境省

『もともとその生息地に生息していた
生物種の個体および集団』

『もともと』とありますが、時間の範囲
は統一されていません。

外来種とは…

『人間活動によって自然分布域の外
に持ち込まれた生きもの』

『本来はその国や地域にいなかった
のに人間によって持ち込まれ棲みつ
いてしまった生きもののこと』

渡り鳥、海流にのって移動してくる
魚や植物のタネなどは、自然の力で
移動するものなので該当しません。

*1：亀山章監,倉本宣 佐伯いく代編(2021)

自然会議で取り上げられた 在来種に迫り来る外来種たち

生田緑地での取り組み

シンテッポウユリ



自生地：在来種テッポウユリと外来種
タカサゴユリ（台湾原産）の
交雑種のため定まっていません。
脅かされる在来種：ヤマユリ等

今年度の自然会議で議論がなされ、
花を楽しみながら勢力を抑えていく管理を
実施するエリアを決めました。
(生田緑地HP 自然会議ニュースレター参照)

アメリカザリガニ



自生地：アメリカ南東部等
脅かされる在来種：ホトケドジョウ、ヤゴ
メダカ、ヌカエビ
タヌキモ類 等

各活動団体によって活動時に捕獲を
試んでいます。

ウシガエル



自生地：アメリカ東部・中部等
脅かされる在来種：ホトケドジョウ、ヤゴ
クサガメ、モツゴ
カエル類 等

生田での占住エリアは奥の池です。
ホトケドジョウを守る会では毎年捕獲を
試んでいます。

ニワウルシ



自生地：中国
脅かされる在来種：周辺に生育する植物種
(アレロパシー効果^{*2}による)

2007年、かわさき自然調査団が呼びかけ、
市民と共に「ニワウルシ駆除作戦^{*3}」を
実施しました。

*2：アレロパシー効果：葉・幹・根の抽出物により他植物の生長を抑制します。

*3：2007年駆除作戦 ニワウルシ以外の対応種:アメリカザリガニ、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ

外来種に脅かされる在来種は脆弱なイメージを持ちます。
一方で、外来種をものともしない逞しい在来種も多く存在します。
時に人の手を加えながら、他の生物と関わり合う在来種を一部ご紹介します。

「川崎の生きもの」
青少年科学館で
販売中！



草本 アズマネザサ



自生地：主として本州（中部地方以北）。
外観特徴：茎にあたる稈（かん）は縞模様。
他生物との関わり：アズマネザサを利用する生物の主役は鳥です。ウグイス（留鳥）はアズマネザ

サの茂みで営巣し、冬鳥は餌の昆虫をアズマネザサの中で見つけ捕食します。昆虫では、ヒカゲチョウ類の幼虫がアズマネザサを食べます。

人との関わり：生田緑地では、明るい林床を目指すエリアにおいて、各団体が実生の幼樹・貴重な草本を保護するため、アズマネザサの刈取を行っています。



草本 カナムグラ



自生地：北海道、本州、四国、九州。海外では中国。
外観特徴：手のひら状に5〜7に深く分裂。
他生物との関わり：カタテハ（蝶）の幼虫はカナムグラの葉を、アオジ

（冬鳥）はこの実を食べます。花に吸蜜に来る昆虫も多いです。

人との関わり：かつてカナムグラの新葉を茹でて食用にしていたようです。生田緑地では、植生管理のために一部エリアでカナムグラの刈取を行っています。



草本 ドクダミ



自生地：北海道南部から沖縄。海外では、中国、ヒマラヤ、東南アジア。
外観特徴：白い花卉に見えるのは総苞片で穂状のものが花序。
他生物との関わり：葉の食痕はあまり確認されませんが、花にはアブ等の

昆虫が吸蜜に訪れます。

人との関わり：古くからゲンノショウコ、センブリとともに日本3大民間薬の一つに数えられています。



自生地：北海道から九州。海外では朝鮮、中国、東南アジア。
外観特徴：花は穂状になり、紅紫色の花を下から咲かせます。
他生物との関わり：昆虫の

コフキゾウムシ（体長5mm前後）は、5〜6月頃にクズの葉を食べます。

人との関わり：秋の七草として昔から日本人に親しまれています。生田緑地では、サクラ等の高木に絡むと樹勢を弱めてしまうため、刈取を行っているエリアがあります。



樹木 ハリギリ



自生地：北海道から沖縄。
外観特徴：若い幹や枝に太く鋭いトゲがある。
他生物との関わり：ハリギリの実は、シロハラ（冬鳥）やメジロ（留鳥）などの鳥が食

べます。こちらの写真ではヒヨドリ（留鳥）が食べています。多数の花は昆虫も招きます。

人との関わり：良質で有用な材がとれます。若葉は、山菜として珍重されます。

樹木 アカメガシワ



自生地：本州から沖縄。
外観特徴：枝先の若葉が赤い。樹皮はマスキメロンのよう。
他生物との関わり：アカメガシワの実は、キビタキ・オオルリなどヒタキ科の鳥がよく好んで食べます。葉の裏の蜜

腺にはアリが集まります。

人との関わり：古くから人々の生活に関わり、軟らかい木材は、床柱・下駄・薪炭に使われました。樹皮は生薬としても。